

法

54

中央鐵道に對する意見

301139-000-6

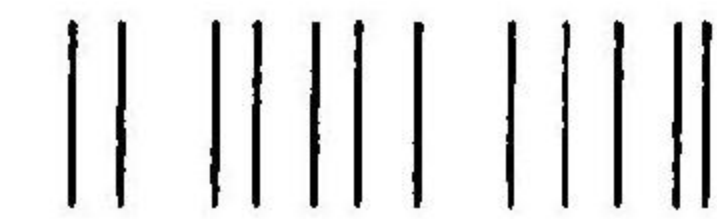
法-54

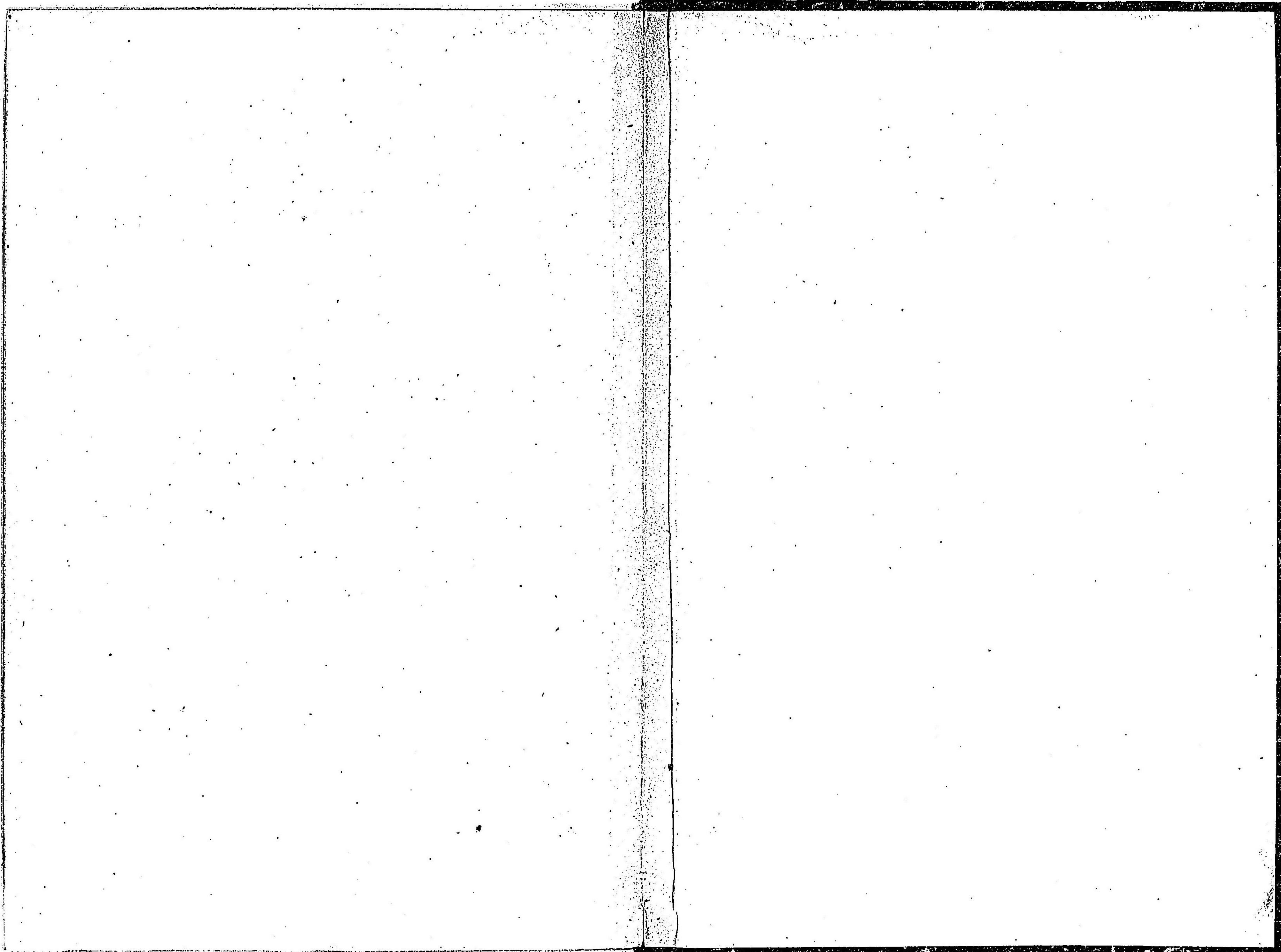
中央鐵道に對する意見

野口吉十郎

M25.12

CDF-0028





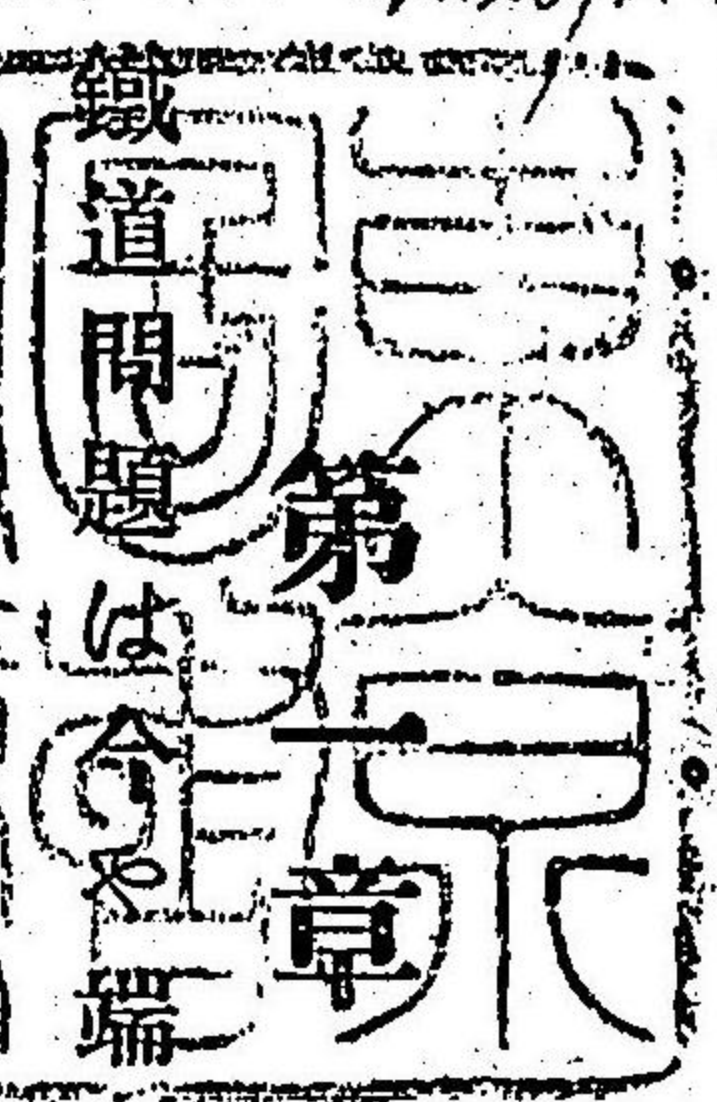
法-54

4.28/1917

中央鐵道に對する意見

尾張國熱田町字白鳥

野口吉十郎



緒言

鐵道問題は今や端無くも全國の問題となり世論囂々恰かも群雀の囀
 々たる如し私見是れ主張し私利是れ謀り毫も國家の經綸を有せず
 吾人をして轉た國家の前途を憂患せしむ眼苟くも國家の大觀を有し
 心苟くも國家の將來を想ふもの豈に黙々に看過し得んや

予は尾州熱田町の一民にして數代材木商を以て業と爲し常に専ら實
 業の事に奔走し毫も政治上に啄を容れしこと無し然るに這度の問題
 は實に國家永遠の問題にして若し其歩を誤るに於ては再ひ挽回す可
 からざるものなるにより聊か予が職業上從來の經歷により自から信
 する所を開陳して以て諸公の參考に資せんと欲するなり故に架空の

暴説を吐て以て一時の幸を得んとするの徒輩と異なり實に國家を思ふの熱情よりして止むを得ざるに出てしのみ

數多き鐵道問題の中に就て尤も吾人の熟考を要す可きものは實に中央鐵道にありとす抑も鐵道の國家の一大事業にして敷設其當を失するに於ては直に其國の軍事經濟に影響を及ぼし竟に救ふ可からざるの大患を惹起すに至る既に是を敷設し了し然る後之を悔ゆ刀を以て人を殺し然る後之か蘇生を祈るか如し悔ゆるも何の詮かあらん嘗に六蒲十菊の比のみならざるなり是故に凡そ鐵道の問題を議せんと欲せば先國家なる眼鏡を懸け然る後能く内外の狀勢を考覈し地形に察し地質に考へ將來の事業物産に思を凝らし永遠なる前途を達觀して以て初めて斷案を下さざる可からず然り而して今の鐵道論者は概ね之に反し唯目前の利に心を傾け毫も國家の眼鏡を持する者無く甚し

きは鐵道問題を以て地方問題と爲し鐵道事業を以て地方事業と爲し義金と稱して金圓を募集し運動と稱して上京し以て各議員を訪問す而して説くに地方の利害を以てして曰く若し之か敷設を見ずんば我地方は遂に廢滅に歸せん曰く若し之か敷設無きに於ては我地は遂に彼の地に勝つ能はずと嗚呼甚ひ哉國家の事業を以て地方占有の事業と爲すことや吾人を以て之を見れば實に蝸角の蠻觸のみ是寔に笑ふに絶えたる事なりと雖ども目今の情狀斯の如し予は固より實業家を以て自から任するものなるか故政治上に容喙を試むるか如きは亦固より自から望まざる所なりと雖ども此情狀を見此形勢を知り如何ぞ國家の爲め一言の辭無きを得んや

予は絶對的に木曾線の中央幹線として適當なるを認むるものなり假令其工事は難しとするも假令其工費は嵩むとするも假令其物産は寡

少なりすとるも予は斷乎として木曾線の採らざる可からざることを認むるものあり況んや其工事は難きに非らず其工費は嵩むに非らず其物産は無限量なるに於てをや乞ふ是より逐次其然る理由を説明す可し

第二章 軍事上に於ける中央線

一、木曾線は軍事上唯一の幹線なり

我國の海國なることは固より論するに足らず從て國防上海軍を以て主要の地位に置かざる可からざること亦固より論無しと雖とも然れども我國は長延龍蛇の形勢を有するか故に一朝事有るに際會せば一に陸軍の運轉敏活を恃むの外又決して策有るを見ず是を以て海軍を擴張すると同時に亦陸軍の運轉敏活を謀らざる可からざるなり然り而して其運轉をして敵軍の妨害を避け自由の活動を得せしめんと欲

せば是非共沿海鐵道の敷設を避け遠く之を全土の中脊に求めざる可からず而して其中脊に當るの地は實に中仙道に在りとす政府が往年中仙道鐵道を計畫したるは其意蓋し亦是に有らずんば非らず然るに此設計は無慘にも碓氷の高嶺の爲に排斥せられ遂に東海鐵道を見るに至れり然れども東海鐵道は固と是れ軍事の目的を以て敷設したるに非らざるか故に早晩木曾を通する軍用鐵道の設計を見るからんと待ち居たりしに果せる哉正理の明光は何時しか陰雲を排除して茲に再び中央鐵道の氣運を挽回し遂に本年法律第四號を以て鐵道敷設法を公布するに至れり是予の國家の爲に大に喜ぶ所なりと雖ども然れども予は何故に木曾伊那兩線の比較を要するやを怪しむものなり木曾線果して敷設し能はずとならば則ち止む苟くも木曾線にして敷設し能ふ以上は何は兎もあれ此線を以て中央幹線と爲さざる可からざ

るは明々白々一點の疑ふ可き積を有せず抑も中仙道の我國の脊髄にして尤も海濱に遠かり居るとは何人も能く了知する所ならん既に海濱に隔絶する以上は從て軍事鐵道として最好適の性格を有すること亦固より理の當然とする所なり既に然り軍事鐵道の幹線たる中央鐵道を敷設するに當り亦何ぞ木曾伊那の比較を要せんや唯此際に於て世人の疑問となる可きものは木曾線の嶮難なりと言へることなり然れども木曾線は世人の想像するか如く決して嶮難の地に非らざるなり是一度中仙道を通行せしものゝ能く知る所にして遙かに伊那線の難工なるに似ず今假りに木曾線を排斥して伊那線を探ると爲さんか神坂中馬三河の三線中果して何れを探らんとするか神坂中馬の如きは唯是れ言ふ可くして行ふ可からず止む無くんば夫れ三河線か然りと雖も此線の如きは幸に峻岨なる嶮坂を經過し得ると爲すも實

に海濱を去る僅かに五六里の短距離にして一旦緩急有るに於ては忽ち三河灣より進撃を被ふるは必要遂に軍事鐵道の目的を失するに至る嗚呼軍事鐵道を敷設せんと欲して而して軍事鐵道の目的を失す是れ豈に寧ろ敷かざるの勝れるに若かんや之を要するに予は斷々乎として木曾線の外一として中央鐵道の目的に合するもの無きを信するものなり

議者或は曰く木曾線は複線を敷設する能はず是實に甚しき誤謬の説なり木曾の土如何に狭少なりとするも豈に一の複線を設くる能はざるの理あらんや能く事情に通するの人は蓋し其議論の幼稚なるに驚愕せん予を以て是を見れば複線の難きは木曾に非らずして却て伊那線に多しと言はざるを得ず複線の事亦何を囑々するを要せんや議者或は曰く木曾線は積雪の爲めに汽車の運轉を杜絶すと是亦荒唐

無稽の暴言たるに過ぎず思ふに議者は木曾の事情には極めて疎きものなりといふ可し木曾の積雪は大雪と稱するも唯僅に二尺に過ぎず去れば汽車の運轉に差間を與ふるか如きは決して無きの事なりとす要するに議者は針小棒大の主義によりて以て事情に通せざるものを欺罔せんとするに過ぎず希くは能く實際の調査を遂げ以て世上に報告せよ

一、中央鐵道の西端は直に岐阜若くは木曾川驛に連続すべし中央鐵道の木曾線を探らざる可からざることとは前既に之を概論したり然れども直に之を名古屋に連続せしむるに至りては聊か顧念を要す可きものあり抑も名古屋の地たる僅かに一里を隔て、熱田港に接するか故に軍事上より之を観察すれば名古屋に連続するを停めて以て直に岐阜若くは木曾川驛に達するを可とす然りと雖ども名古屋は

有名の大都にして熱田港あり第三師團あり經濟國防の上にて於て忽にす可からざるの土なるか故に中央線の連續を計るは敢て不可とする所に非らず否寧ろ其必要を認むるものなり今鐵道敷設法によれば中央鐵道は東京より名古屋に至るの線路なりと稱し世論亦名古屋に至るの不可を唱ふる無きを以て見れば名古屋に連續するの必要は殆んど争ふ可からざるか如し然れども予は軍事鐵道としては直に岐阜若くは木曾川驛に連結するを以て完全なるものなることを斷信するなり之を要するに予は中央鐵道の西端をは適宜の地に於て之を分岐し一は以て岐阜若くは木曾川に達し一は以て名古屋に連續せしめんことを欲するものなり是實に軍事鐵道の目的に於て國家經濟の上にて充分に諸公の熟考を乞はんと欲す

第三章 經濟上に於ける中央線

一、木曾線は伊那線に比して工費少し

苟くも軍事鐵道の目的を達せんと欲せば假令其工事は難しとするも亦假令其工費は多額を要すと爲すも之を決行するに於て何ぞ踟躕を爲す可けん況んや木曾線は世人の想像するか如く決して嶮難の線路に非ず從て僅少なる工費を以て敷設し得べきに於てをや元來木曾の線路たる木曾川沿岸に於ける一帶の通路なるを以て其地固より甚しき高低を見ず唯僅かに難所とも稱す可きものは一鳥居峠有るのみ然れども是とても唯一隧道を以て事足る可きものにして彼の伊那線に於るか如く幾多の隧道を要すること無し然り而して尤も多額の費用を要する橋梁の如きは唯僅かに二個の架設を以て充分なりとす之を彼の伊那線に於ける十五大橋梁の架設に比するに於ては實に些少の工費のみ併のみならず木曾は有名なる大山林を有し如ふるに石材に

富めるを以て隧道橋梁及敷設に必要なる枕木等に至る迄毫も之を他の地に仰かすして直に之を使用するを得べし彼の伊那線に於けるか如く一々之を他の地に仰くものに比すれば實に甚しき工費の減少を見ん是即ち木曾線は伊那線に比して工費少しと言ふ所以なり

一、木曾線は伊那線に比して修繕の費用少し

夫木曾の地質たる概して堅剛なる崑石を以て充さるゝか故に一度鐵道の開通を見るに於ては毫も破損の患無く實に万代不易の事業なりとす而して此線は木曾川の水面を抜くこと二十尺乃至三十尺の高所にあるを以て假令洪水の氾濫たる有りとするも平然として居常に異ること無く依然として快走することを得へし然るに伊那線に在ては大難所たる三田切の外尙二十餘流の暴河を控ふるか故に線路橋梁に破損を生ずること常に絶ゆるの時有らざる可し併のみならず彼の枕

木なるものは如何に善良なる材木を使用したりとするも七八ヶ年乃至十ヶ年の後に至れば必ず取替へざる可からざるものにして木曾にありては此事寔に容易なりと雖ども伊那にありては必ず之を他に仰かざる可からず其運搬の費用のみにては實に莫大なるものと云ふ可し是即ち木曾線は伊那線に比して修繕の費用少しと言ふ所以なり

一、木曾線は伊那線に比して貨物多し

軍事上の鐵道に於ては固より其鐵路の經過よりして起る可き利益の多寡を以て優劣を判す可からずと雖ども然れども軍事は稀なり經濟は常なり故に能ふ可くんば軍事好適の線路にして兼て經濟上の目的を充足するの線路を採擇するを以て最上乘と爲さざる可からず然り而して木曾線は實に此二者を併有せり彼の伊那線を主張する論者は上下伊那を以て直に西筑摩の一郡と比較せんと欲するか如しと雖ども

も決して其當を得たるものに非らず何となれば東西筑摩南北安曇の四郡なるものは世に之を松本平と稱するの地にして政治經濟其他總ての點に於て常に一團の働きを爲し居るものなればなり故に木曾線は安筑四郡は言ふに及ばず上伊那郡の肯綮たる辰野を掠むるの路線なるを以て上伊那亦決して木曾線の恩澤に浴せずと言ふを得ず伊那郡如何に物産に富むとするも之を安筑四郡に比するに於ては殆んど顔色を失するなる可し況んや上伊那は木曾線に據て以て充分に其働を爲し得べきに於てをや

且夫木曾線にありては木曾山林と稱する無限無量の天與の大産を有するあるに非らずや今試に同山林に依て來る可き經濟的現象、木曾線に依て起る可き貨物の便益を説述して以て幼稚なる近眼者に一餐を侑めんと欲す

木曾山林より年々伐採する所の材木は尺(一尺角二間とす)凡十萬本内外なりと雖も一旦鐵道の開通するに至れば更に幾萬本の増截を見るに至る可し然り而して此伐採せる所の材木は悉く之を木曾川に投入して熱田港に着せしむるを以て常則と爲す而して此川流しにする費用は一本に付五十錢乃至六十錢にして更に之を東京若くは大阪に運搬するに於ては殆んど一圓四五十錢を費さざる可からず然るに鐵道の開通するに至れば木曾川より熱田に致すの費用を以て直に東京若くは大阪に運搬するを得可し今之を十萬本に積算すれば實に十萬圓の利益ありとす

併のみならず川流しは平均一割以上の流失及傷木ありとす而して此一割ある算用は寔に内輪の算用にして年によりては大水の汎濫有るか爲め三割四割の流失を見ることあり亦既に熱田に着せし後と雖も風波の爲に空しく大海に葬らるゝもの其幾千なるを知らず材木商の危険なるは實に此流失木にありとす今若し鐵道の開通するに至れば此等無數の流材を救ふを得べく幾百年を経過せし天與の良材は悉く吾人の需用に應ずるを得可し今假りに一本の代價を五圓と爲し流失木の總價額を積算すれば實に五萬圓乃至十萬圓の巨額なりとす今鐵道によりて之を活用するに於ては彼れ此れ十萬圓乃至二十萬圓の上に出づ可し豈驚く可きの利益にあらずや

議者或は曰く材木は川流しに限りとは是甚しきに誤謬の論にして予は殆んど其理由を解するに苦しむ必竟是れ筏乗の其職を失はんを恐れ若くは材木商か直に東京大阪等に運搬せらるゝを恐るゝの言なる可し予は熱田に於て材木商を營業と爲すものなるか故に自身自己の

利益より之を見れば寔に前説に賛成なりと雖も鐵道の事業は固く是國家の事業に屬す自己一身の利益を以て如何ぞ國家の經濟を誤る可けんや

加之雜木及末木等の如きは運搬の不便なるか爲め空しく腐朽に屬すると雖も一旦鐵道の開通するに至れば此等不用の廢物は忽ち四方に紹介せられて此に必要な薪炭の用を爲す可し現に多治見及瀬戸に於ける陶器製造所諏訪郡に於ける製絲場の如きは殆んど其薪炭を得るの途に窮するの狀あり故に鐵道の開通するに至れば此等諸製造所に於ける便益は夫れ果して如何をや

口付知鹿子母に於ける材木

東濃中津川より飛州高山に達するの道路あり途に付知鹿子母と稱する市街あり而して其地廣袤諸多の物産に富み特に最良なる山林を有

せり其伐採する所の材木は未だ充分の調査を遂げずと雖も年々二三萬本の材木は必ず伐截することなる可し今若し木曾線の開通を見るに至れば此等諸山の材木は皆悉く鐵道に依て運搬するを得可し是亦木曾線に於ける一大利益に非らずや

ハ多治見瀬戸に於ける陶器

東濃多治見及尾州瀬戸に於ける陶器の産額は實に莫大なるものにて既に先年兩地へのみを目的として私設鐵道を敷設せんと計畫せし事さへありき以て其産額の偉大なるを知るに足る可し而して前既に陳ぶるが如く兩地の陶器製造に費す所の薪炭は實に巨額を要することとなるに今や其薪炭を需むるの途に窮し釜數減少の計畫さへありと云ふ今夫れ鐵道の開通を見るに至れば陶器は之に依て以て運搬するを得べく薪炭は之に依て以て供給を仰くを得可し是亦木曾線に於け

る一大利益にあらずして何ぞ之を要するに木曾線の經濟的現象を以て伊那線の利益を達觀すれば唯憫情を催ふす有るのみ此に於て乎予は比較線なる語は抑も何等の理由によりて使用するに至りしやを怪しむ嗚呼伊那線は氣の毒乍ら竟に木曾線に對して閉口低頭せざるを得ざる可き乎

第四章 結論

章を追ひ項を別ち論述以て此に至れば木曾線は實に中央幹線として充分の性格を有するものと言ふ可きなり帝國軍事の上よりするも將亦國家經濟の上よりするも又他に決して比較す可き線路を見出す能はざるあり且夫れ北越線を分岐して篠の井より松本を経て是に連絡す可きの設計あり松本より飛州高山を経て富山に達するの計畫あるに非らずや此に於て乎木曾線の益々中央幹線として唯一の性格を有することを認む可きなり

前既に陳ふるか如く鐵道は國家百年の專業なるか故に決して輕々速斷を下す可きに非らず特に中央鐵道の如きは尤も然りと爲す若夫れ設計一步を誤るあらん乎實に千載の遺憾にして決して救ふ可きの方策を有せず東海鐵道は蓋し能く其好適例を示せるものなり然りと雖ども人類の弱點は往々にして此等國家の問題を以て一小地方的の問題と爲し以て永遠の大計を誤るに至る

嗚呼國民代表者たる代議士諸公國家施政の要職を有する閣臣諸公希くは國家の眼光を以て能く此問題を討究し永遠無窮の前途に思を凝らし以て帝國將來の福利を圖れ敢て國家の爲に諸公の參考に供す嗚呼予か此言を爲す所以のもの寔に國家の前途に於て黙し難きもの有ればなり諸公幸に是を諒せよ

8/35

明治二十五年十二月二十二日印刷

明治二十五年十二月二十三日出版

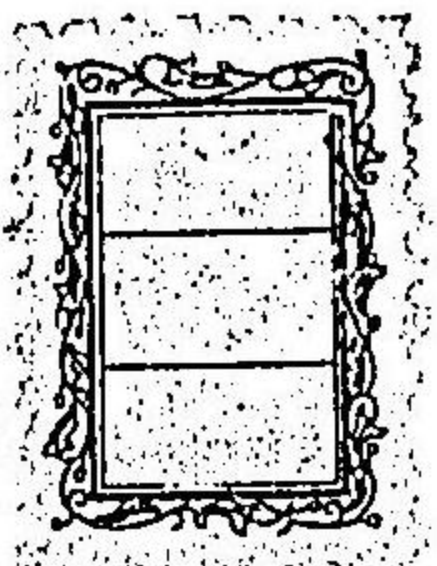
(非賣品)

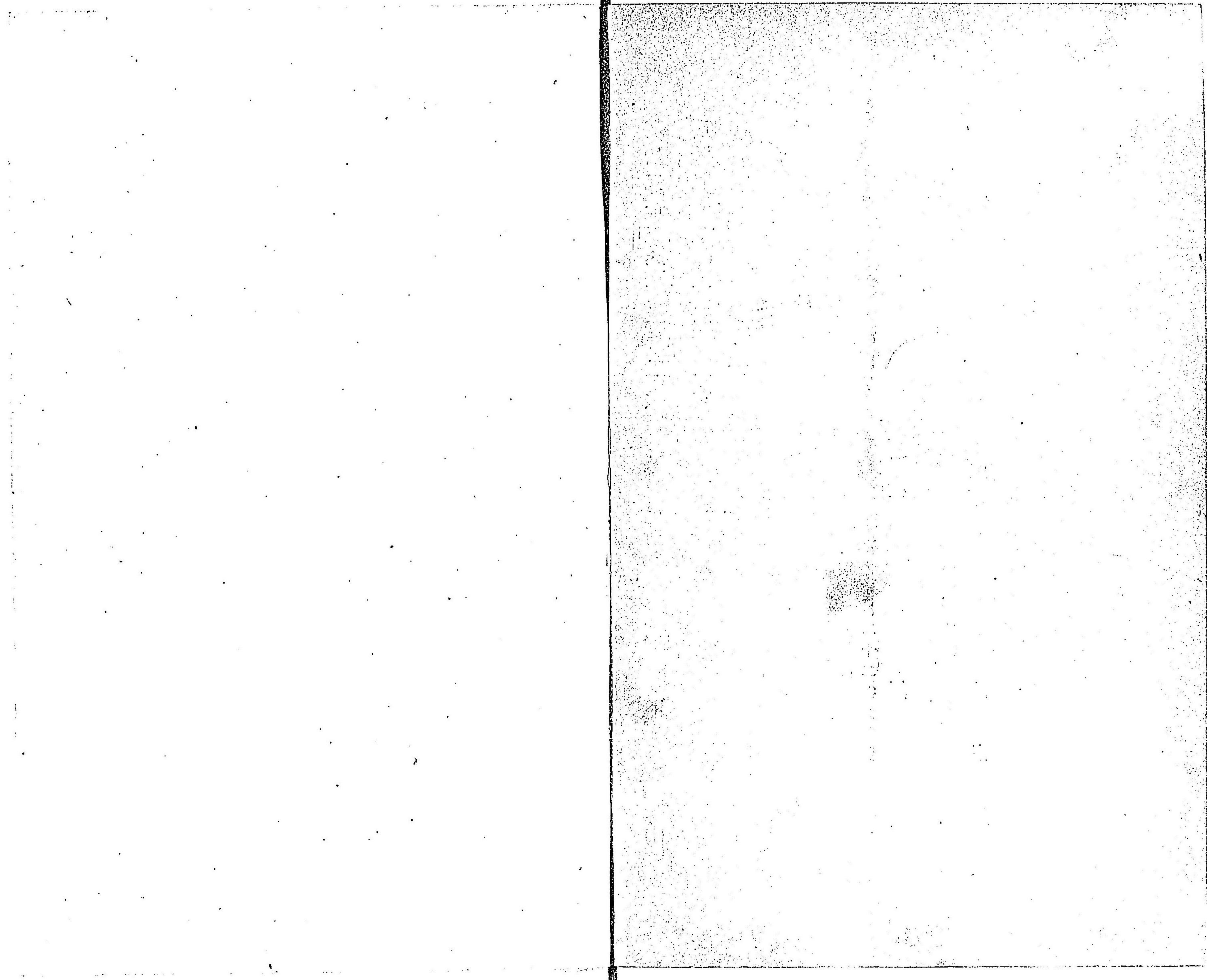
東京府東京市麴町區飯田町
六丁目二十二番地寄留

發行者 胡 桃 濱 吉

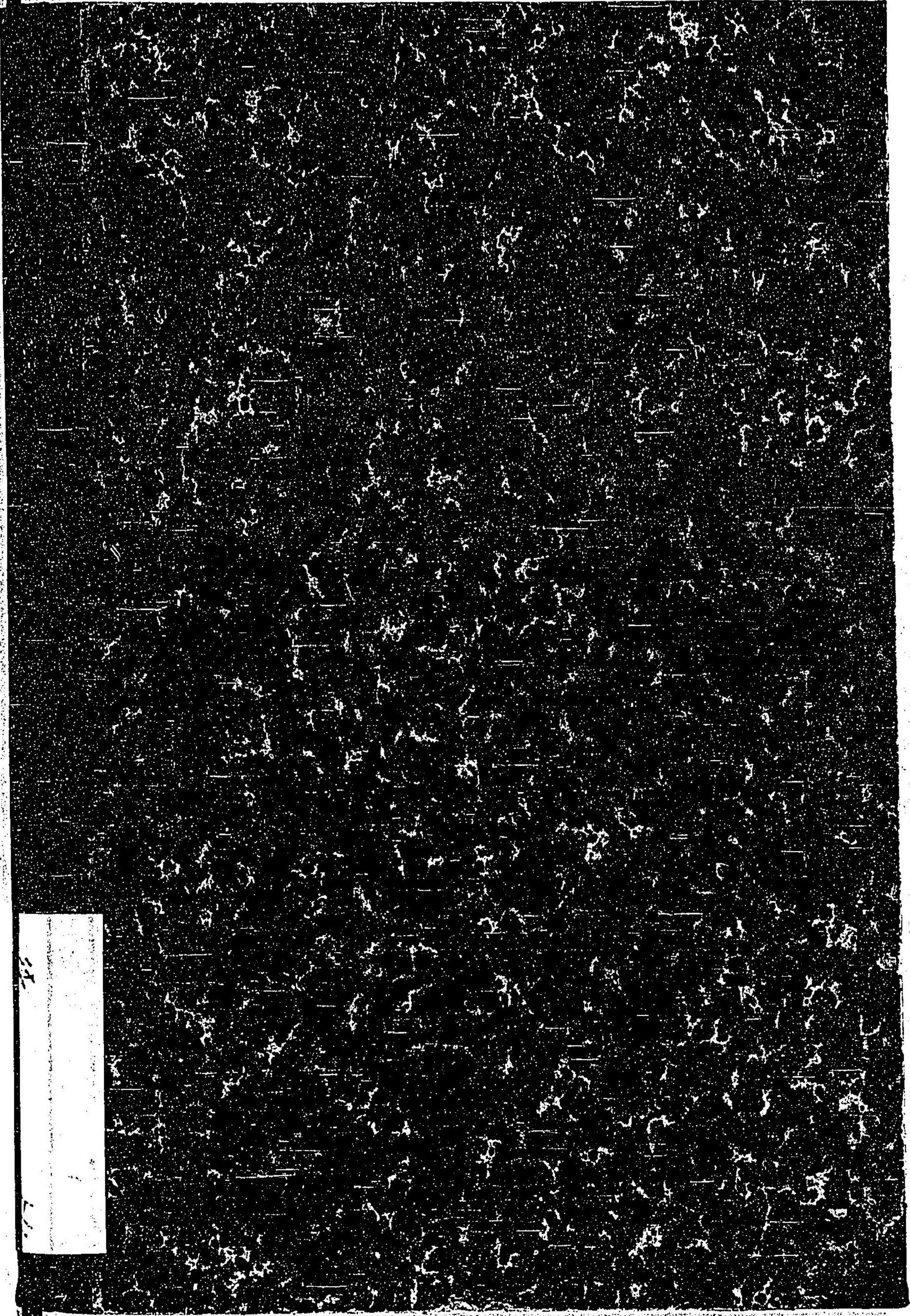
同京橋區瀧山町七番地瀧關舎

印刷者 島 田 用 定





| |
|----|
| 法 |
| 54 |



Small, light-colored rectangular label with illegible text, possibly a library or archival tag.